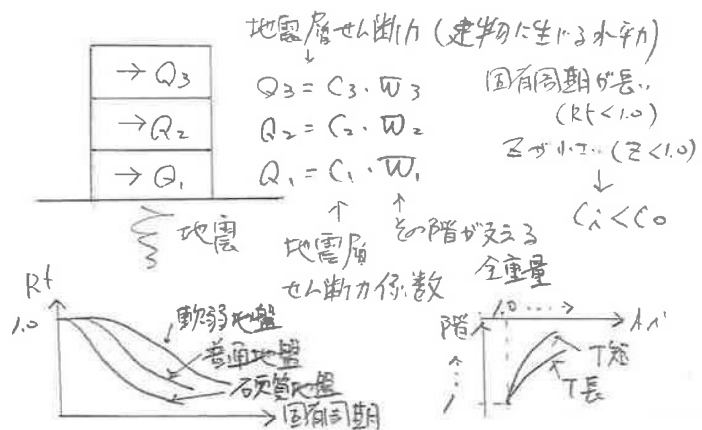


平成26年 No.8 荷重及び外力

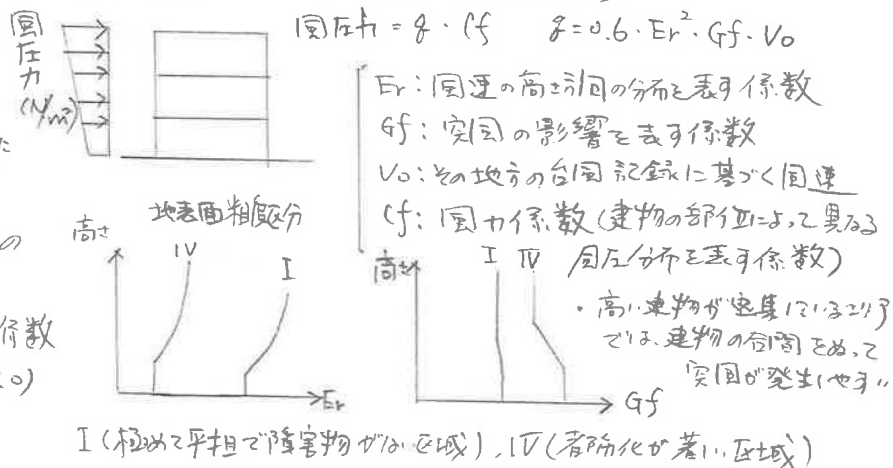
1. 地震層せん断力係数 → 建物の固有周期が長い場合や、地震地域係数が小さい場合に、 C_i は C_0 より小さくなる場合がある
2. 風圧力算出に用いるガスト影響係数 G_f → 地表面相区分「I」より「IV」の方が大きく、建物高さが低いほど大きくなる
3. 屋根ふき材の検討に用いる風圧力 → ①-②風圧係数を用いて計算する
4. 降雪区域における積雪荷重 → 暴風時及び地震時荷重と組み合わせる必要がある

1. 地震層せん断力係数 (C_i) → $C_i = Z \cdot R_t \cdot A_i \cdot C_0$ 令88条



- Z : その地方の過去の震害の程度に基づく係数 (1.0 ~ 0.7)
- R_t : 建物の固有周期と地盤の種類に基づく係数 (1.0 以下)
- A_i : 地震層せん断力係数の高さ別の分布を表す係数 (1.0 以上)
- C_0 : 地震の大きさに基づく標準せん断力係数
 一次設計 (0.2, 0.3) 二次設計 (1.0)

2. 風圧力算出に用いるガスト影響係数 G_f 令87条



3. 屋根ふき材の検討に用いる風圧力 令82条の4

- 瓦・折板・ガルバリウム鋼板など
- 台風により脱落(たふし)に検討
- 風圧力 = $\bar{q} \cdot C_f$ $\bar{q} = 0.6 E_r^2 V_0^2$
- C_f : ①-②風圧係数 (屋根の部分別により異なる)
 風圧分布を表す数値

4. 降雪区域における積雪荷重 令86条

